



言葉の持つ大きな力

職員玄関前のイチョウが見事に黄色く色づいています。毎朝美化委員の生徒を中心に部活の朝練の生徒や有志の生徒も参加して落ち葉掃きをしてくれているのですが、今年は10月の台風の時の塩害のせい、かなり早くから落葉しはじめたため、イチョウの木の南側はもうすっかり葉を落としてしまいました。先月下旬からスタートした落ち葉掃きもそろそろ一ヶ月たちますが、まだもう少しかかりそうです。

まだイチョウの葉が青々としていた10月半ば頃から、昼休みや放課後の時間に、3年生の高校入試に向けたグループ面接の練習を続けています。学年生徒全員の面接を終えるには12月半ばまでかかる予定です。なかなか順番が来ないので不安になった生徒が「校長先生、面接はまだですか？」と心配そうに聞いてくることもありましたが、一人一人の生徒と面接の練習をすることで、直接顔を合わせて話をする場面が持てることはとても有意義です。

面接に臨むとき、子ども達はかなり緊張しています。高校入試の面接練習というだけで緊張するのに、そこで面接官役の校長からいろいろな質問をされるのですから、緊張しないわけがありません。みんな、最初はガチガチに緊張して入ってきます。しかし、緊張するのは決して悪いことではありません。「真剣な気持ち」や「前向きな意思」は、緊張感を持っているからこそ相手に伝わるものです。



子ども達が緊張した面持ちでドアを開けて入ってきて、面接用の椅子に座って向かい合った時にいつも感じるのは、一人一人が持つひたむきな姿勢です。そして、そういう場面で彼らの口から出る「言葉」は、大きなパワーを持っています。緊張しすぎて言葉に詰まっても、間違ってしまったら、言い直しても、その言葉には、「自分の考えを相手に伝えたい」という真剣な気持ちが詰まっているのです。

面接練習で、緊張して少し紅潮した頬を一生懸命に正面に向けて、自分の考えを相手に伝えようとする子ども達は、人生で初めての経験に向けて、懸命に自分を奮い立たせていて、その姿には感動さえ覚えます。おそらく、「言葉」は言葉だけではなく、その言葉を発する人間のその時の気持ちやひたむきさや真剣さ、それらが作る雰囲気すべてが相手に向かって伝わっていくのでしょ。

本番でうまくしゃべれなくても、詰まってしまったとしても大丈夫です。服装を整え、姿勢を正して、常日頃からウソのない自分をこころがけて、相手に真剣に自分の考えを伝えようとする気持ちを持って臨めば、「言葉」の持つ大きな力が、自分自身の本来の姿を相手に伝えてくれるはずですよ。

黄色く色づいたイチョウの葉がすべて落ちて、木々がみんな箒になった頃に全員の面接練習が終了すると思います。3月の卒業式で一人一人の顔を見ながら卒業証書を手渡す日を楽しみにしながら、緊張感いっぱいの面接練習をしています。